

今回は、学年の先生に寄稿してもらいました。いつもありがとうございます。

学年の先生たちとも上手くやっていけそう。」

この「1日の報告」の日課は10年以上続いています。話し相手は空の上にいる私の父です。



します。
空の上に
いた学校に



を主張することだけを優先して人を傷つけるべきではないということ。「死ね」という言葉1つとってもそうです。冗談交じりで友達に言っている姿を時々見かけますが、そんな最低の言葉を使うべきではないと強く思います。

2つ目。休校が続く中で、家族と過ごす時間が増えましたよね。家族とどんな会話をしていますか？ストレスを感じるからと、家族に八つ当たりをしたり、心ない言葉を発したりしていませんか？

私は父の死を機に、時間の重みをより一層強く感じるようになり、同時に、関わる人たちの言動を尊い（時には愛おしい）と感じることが多くなりました。もちろん、家族や同僚、友人と何気なく毎日を過ごす中で、常に“別れ”や“死”を意識して過ごすことなんて、普通は無いと思います。でも、今、目の前にいる家族、日々時間を共有している仲間たちとの1分1秒って、とってもとっても大切に貴重でかけがえのない時間だと思うのです。

私の場合は… 今、この原稿を打っている私の横でウトウトしかけている夫、北九州での生活をいつも気にかけてくれる母、忙しい日々を送りながらも色々と相談にのってくれる姉たち。新しい職場に移ってからは、学年の先生方 ― いつも視野を広げるきっかけをくださる G 先生、冗談交じりのスネた表情がチャーミングな O 先生、くだらないバカ話と一緒に泣き笑いしてくださる T 先生、ドンと構えて相談にのってくださる K 先生、お子さんの可愛いエピソードで癒してくださる T 先生、センスのあるブラックジョークがカッコいい K 先生、毎朝早く来られてコーヒーの準備をしてくださる Y 先生、フォッフォッフォッと素敵な笑い声をお持ちの I 先生、誰にも真似できないプロフェッショナル M 先生、いつも落ち着いたご様子で癒しの存在 I 先生、真っ直ぐで優しさ一杯の O 先生、新婚さんでニヤけが止まらない N 先生、豊富な指導法をお持ちの O 先生、純粹無垢な乙女 T 先生、落ち込んでいる時にタイミングよく声をかけてくださる K 先生、いつも素敵な香りが漂う T 先生、口数少なくても発する一言が深い Y 先生。そして、そう、生徒たち。一緒に並んで歩いたり、笑ったり、何か質問されて答えたり、目を見て話したりしている時（極々ふつうのこと）でさえも、“大切な一瞬”と考えて毎日を過ごしています。

3つ目。「(ホントは不満を感じてるかもしれないけど)よく不満も言わずに、仕事をするね」と言われることが多くなりました(いや、ホントは無意識に口にしていく気もしますが)。でもこれも、父の死の影響という自覚があります。あの時以上に辛く苦しいことは無いように思えるからです。

「そんなに何でも引き受けると、都合のいい人と思われるよ。」と友人から忠告を受けたこともありますが、「それでいい」と私は思います。何でもやってみれば失うことより得ること、学ぶことの方が多いし、何よりも「立派な教員になってくれ」と願った父の意に沿うものだと思うからです。

なんだか思いつくままに書かせていただきましたが、(最後まで読んでくれてありがとうございます。)最後に一つだけ。ここまで読んでくれたあなたが、この後、これまで同様、もしくはこれまでに、家族や周囲に対して日頃の感謝の気持ちを素直に表現できる人であってほしいと思います。

おしまい。